

こどものうるし

－会津漆器の伝統技法を用いた提案－

A2201205 小崎真子

研究の背景および概要

会津漆器には朱磨きや鉄錆塗等、江戸末期から明治時代に始められた独自の伝統技法があるが、一般的にはあまり知られていない。私自身会津出身であるが、クラフトゼミに所属し漆の勉強をするまでは会津塗りにどのような技法が存在するのか全く知らなかった。実際、会津独自の技法を使用している製品も今では少なく、あっても店舗の隅に小さなコーナーがある程度である。

現在、漆器産業全体の低迷とともに、会津漆器の生産額は減少傾向にある。それは漆器に代わる安価な量産品が普及したこと等により現代人の漆器離れが進んだことも一因として挙げられ、将来的にはますます漆器が私たちの生活の中から減少していく可能性も高い。そこで独自の伝統技法は会津という漆器産地のアピールポイントとなるのではないかと考え、そこで今まで学んできたことを生かしながら、伝統技法を用いての漆器の提案をしたい。

研究の目的

祖父母から孫へのギフト、そして贈られた子どもが親になったときに自分の子どもに使わせたいようなものとして、お食い初め椀のセットを制作する。

幼い頃から伝統技法を用いた漆器に慣れ親しむことで、会津漆器の認知度を高め今後の普及に繋げることを目的とする。

研究のプロセス

【器】

- 1.デザイン検討
- 2.木地制作
- 3.固め
- 4.蒔き地(一辺地、二辺地、三辺地)
- 5.固め
- 6.錆付け
- 7.下塗り
- 8.中塗り
- 9.上塗り
- 10.加飾
- 11.仕上げ

【箱】

- 1.デザイン検討、模型制作
- 2.木地制作
- 3.固め
- 4.布着せ
- 5.布目揃え
- 6.目摺り
- 7.蒔き地(一辺地、二辺地、三辺地)
- 8.固め
- 9.錆付け
- 10.下塗り
- 11.追い錆
- 12.中塗り
- 13.上塗り
- 14.加飾
- 15.仕上げ



木地制作



蒔き地工程



錆付け、研ぎ



下塗り

考察・感想

調査をしている上で、現在の漆器市場では手入れの容易さや価格等の点から、漆ではなく合成樹脂が使用されているものが非常に多いことが気にかかった。子どもの頃から本物の漆器に触れることで、漆器の持つ高級感や価値を伝えることができ、認知度の向上に貢献できると思われる。また高級感を生かすことで、物を大事に扱う心が育まれる等教育にも役立つのではないかと考える。

完成した器を実際に子どもに使用してもらっての使い勝手や全体の印象、また購入者となる大人への購買意欲等の調査まで出来ればよかった。使い手からの意見を聞くことで器の形状や加飾に変化があったかもしれない。